平成23年度広島県公民館等職員研修会（西部会場第２分科会）

分科会テーマ	公民館活動の活性化
発表内容	行財政改革の中で，公民館が活力を持って事業するにはどうあるべきか
発表者	蔵下　　恵（江田島市教育委員会）
コーディネーター	沖本　直樹（広島県立生涯学習センター） 才木　雅仁（庄原市教育委員会口和教育室）
運営委員	大成　克典（東広島市教育委員会）
記録者	芝田　久美子（広島市馬木公民館）

１　分科会の目標

眠っている学習資源を「活かす」方法について，情報交換・意見交換を行い，運営面や事業面でのヒントを得る。

２　展開

（１）分科会の流れについて説明

（２）アイスブレイク

コミュニケーションを促進し，目的を共有するため，コーディネーターによりアイスブレイクを行う。

①活性化の「活」をいう字を使った言葉を16個のマスの中に埋める。

②８グループ対抗のビンゴゲームをし，ビンゴになった人数だけ，前に掲示したグループの欄にシールを貼っていく。

（３）事例発表

発表者による事例発表と課題提案が行われる。

①自己紹介

②江田島市の公民館の概要

③行政改革で指摘されるのは，「ひと」「資金」「成果・評価」

◎「ひと」について

◎「資金」の調達について

◎公民館活動の「成果・評価」について

④最後は，職員の「やる気」と「熱意」

（４）グループワーク

事例発表の中から活性化のキーポイントを挙げ，それに基づきグループ分けをし，協議を行う。

①グループ分け

各自が興味・関心のあるキーポイントで挙手をし，グループ分けを行う。

②グループ協議

各グループで，キーポイントに係る実際に取り組んだ事例やこれから取り組んだら良いと思うことを話し合い，結果をＡ３用紙に書き出した後，全体に発表する。

③全体発表

１グループ３分程度で発表をする。

◆キーポイント：住民参加による学習プログラムの立案・作成

◎Ａグループ（５人）

・自分から動いてＰＲ・・・現状ではアンケートを取ってその結果を次に活かすようにしているが，本音が出にくく参加者やプログラムが固定化している。そのため，地域住民が集う場などに自らが出向いてアピールし，アイデア・素材をつかんでいくことが必要である。

・言葉（声かけ）でアプローチ

◆キーポイント：人材発掘→人材育成→活動の場の創造

◎Ｅグループ（８人）

・心を開いて情報収集・・・地域の人から情報収集することが，人材発掘につながる。

・地域課題に応じた事業を通した人材育成・・・子育て支援という地域課題から，子育て支援ボランティアの育成等を行う。

・公民館同士の連携，活躍の場の更なる拡大・・・公民館同士が連携することで，育成した人材の活躍の場をさらに広げることができるようになる。

◆キーポイント：物的資源の活用

◎Ｂグループ（５人）

・地域資源の活用・・・例えばパソコン教室を実施する場合は，長期休業日や休日の小学校のパソコンルームを活用する等。

・観光資源の活用・・・例えば帝釈峡という観光資源を活かし，ガイドボランティアを養成していく等。

・補助金の活用・・・まちづくりの補助金等を上手に利用して経費を節減していく。

◎Ｆグループ（５人）

・既存施設の整備・・・合併に伴い公民館の類似施設が増加するなどしたが，統廃合などを行ったり，既存の施設を整備したりして活用していく。

・節電，節約

・使用料，減免の見直し・・・趣味教養的な内容で活動しているグループは使用料をもらい，それを公民館の修繕等必要経費に充てる。

◆キーポイント：新しい公民館活動へ向けての取り組み

◎Ｃグループ（５人）

・地域に眠っている人材活用・・・地域の人材を活用すると講師謝金を節減できる分，年に一度は依頼しなければならないといったことが起こり，事業がマンネリ化するケースがある。

・地域の企業とタイアップ・・・企業と連携することで人とお金の協力を得たいが，公民館の設置目的上，営利との兼ね合いもある。

◎Ｇグループ（８人）

・親と子をからめる・・・親も子も満足すると参加者が多い事業となる。

・外に出かける・・・職員の勤務体制によっては館外に出られない場合がある。

・お金がかからない・・・共催団体から謝金を払ってもらったりする。参加費が高いと人が来ないことが多い。

◆キーポイント：職員の資質向上に向けての取り組み

◎Ｄグループ（５人）

・地域の名士を職員として採用・・・行政ＯＢなどではなく，地域の町内会長などを公民館職員として採用する。

・ベテラン職員のノウハウを継承するための具体的で，現実的な研修を増やす

・地域から信頼されるような職員としてのコミュニケーション能力・一般常識を高める教育・・・公民館は貸館業務のみで楽だという公民館の仕事のイメージを払しょくするような人事措置が必要。

・嘱託職員のモチベーションの向上・・・例えば常勤職員への登用や昇給制度を整える等。

（５）まとめ

発表内容やグループ発表の内容を踏まえ，また，３ つの実践例を紹介しながら本日のテーマに沿ったまとめをコーディネーターが行う。

①市民協働における学習の重要性について

協働社会とは「目的意識を共有し，共通の目標に向かって達成に力を尽くすことや，行政と住民が対等の立場でお互いの特性を活かすことで地域社会における諸事業を遂行していくこと」である。これはこれからの公民館活動に必要な理念である。

②公民館が活力をもって事業をするための源とは それぞれの地域の学習資源（大きく分けて人的資源，物的資源，文化的資源）をどのように活用しているか，あるいは活用しようとしているかが今後の公民館事業の活性化を大きく左右する。 ③内閣府調査による提示 社会への貢献意識を調査した内閣府資料を見ると 20 歳以上の約6割が社会貢献をしたいと思っている。こういった人材を公民館に取り込み，地域の住民とともに事業を進めることは，公民館活動の活性化の一つの方法である。	
コーディネーターの所感	○岡田准教授の講演と内容がつながった分科会となり，午前中に示された方向性と午後の江田島市の取組をもとにした提案により，これからの公民館の活動について情報交換や意見交流を行うことができた。 ○「公民館の活性化」というテーマは，取組の幅が広いため，５つのキーポイントに絞ったが，もっと精選して数を減らした方が，より具体論で討議を深めることができたように思う。 ○グループ討議，発表の時間が約 40 分であったが，グループ数が多いこともあり，全体の場での質疑応答などグループ間の協議を行う時間が十分取れなかった。できることであれば，分科会人数は30 人程度が望ましい。 ○経験年数の少ない参加者にとって，活性化のための具体策を考えるのは難しいようであった。経験年数の少ない職員とベテラン職員が一緒のグループになるようグループ分けの配慮が必要であった。 ○発表者，コーディネーターの３人で事前打合せを行い，メールなどを活用して発表内容や分科会の進め方を共有できたことは良かったが，運営委員，記録者の方の事前のかかわりが少ないことが残念であった。当日の運営には，大変協力してもらった。 ○会場がホールであったため，前方の壁面が使えなかったが，パネルを貸していただき対応できた。